白山ふるさと文学賞

第十五回　白山市ジュニア文芸賞　受賞作品

【島清部門】

中高校生　詩の部　優秀賞

# 「透明な足跡」

松任高校二年

小野（おの）　珠季（たまき）

朝の光が窓を叩き
静かな部屋に青が満ちる。
昨日までの悲しみは
机の隅に置いたまま
新しい靴の紐を結ぶ。
一歩を踏み出すたびに
小さな埃が宙を舞い
見えない世界の境を
少しだけ押し広げていく。
誰も私の行き先を知らない
私自身でさえも。
けれど胸の奥の秒針は
確かに明日を指している。
すれ違う人の冷たさに
心がきしむ日もあるけれど
ポケットの中の温もりを
そっと握りしめて歩いていく。

言葉にならない感情が
胸の中で泡になって弾けた。
それはきっと、
新しく生まれ変わるための合図。
風が通りを吹き抜けて
私の背中を優しく押した。
振り返ることはもうしない。
行く手にはただ、
まっさらな大空が広がっている。
流れる雲を目で追いながら
私は私のまま進んでいく。
誰かと比べる必要なんてない。
この足跡こそが、
私がここに生きた証なのだから。

